

## 報告：卒業生の職場における日本語使用の実態

竹内明弘

国際大学

## 要旨

日本中で構造改革が進む中、本学もその必要性に迫られており、日本語プログラムを含む様々な分野で人的資源の有効活用と無駄をばくことが重要課題となっている。日本語のコースに関しては、本学の英語公用語という特殊な環境ゆえに、「日本語学習が目的で入学したり、日本語能力を就職に役立てたいという学生はありえず、したがって学生の少ない上級日本語コースは無駄である」という意見もある。しかし、このような議論の土台となる共通理解を形成するための基礎資料は十分にあるとは言えず、実のある議論がしにくい状況にある。本報告はこの議論に不可欠と思われるところの卒業後学生が職場で実際に日本語をどのように使用しているかという実態から、日本語コースの有用性を考察するものである。

## 0. はじめに

本学では公用語は英語であり、日本語は選択科目である。しかしながら、このような環境下でも日本語を履修している学生の中には、「日本語能力を就職時の付加価値にしたい」とか「よりレベルの高い日本語を学習することが、就職の機会を広げる」という動機を持っているものが少なからずいることを日本語教師は経験的に知っている。

このような事実に対して、日本語課以外の立場からは、「日本語を就職の付加価値にするためにわざわざ英語公用語の本学に来る学生など存在しない」とか「本学における上級レベルほどの日本語は英語公用語の基本方針から過分であり、冗長な上に履修数も多くはないので廃止するか、特別に課金して実施するべきだ」という意見がある。

経営的な視点はさておき、教育的視点からは本学の日本語コースが

(i). 入学してくる学生の希望にかなっているか

(ii). 就職の際と就職後、職場で要求される日本語能力の涵養に寄与しているか

という2点が最も重要な論点であると言えよう。

さらに広い視野で見た場合、本学における日本語コースの果たす役割がどのようなもので、それをどのように評価するかという問題に行き着くと思われる。

日本語課は日本語コースの「役割」を大学院の修士課程で専門科目を英語で修めた学生に日本語能力という付加価値をつけることであると認識している。この付加価値がど

れほどついたかという問題は、こと就職となると、在学中のインターンシップと就職面接と卒業後の職場という3つの局面が関係してくる。本学の日本語コースのうちで、中級と上級はさまざまなものの中から、これらの局面も念頭においてコースが開発されている。これらの日本語のコースが実際に学生の役に立ったのかどうかを知るためには、職場で卒業生がどのように日本語を使用しているかという実態を調査することが必要であろう。

この報告では本学の日本語コース全体、なかんずく上級コースの撤廃をめぐる議論について解決の一助を提供すべく、卒業生が職場で日本語を本当に使っているものなのかどうか、また使っているならば、どのように使っているかという実態を調査したものである。

## 1. 調査方法

調査は協力者と調査者が1対1の口頭で行った個人面接を録音して、それを文字化したものを分析した。個人面接は2003年11月29日土曜日に以下の手順で行った。

スモールトーク→一般的に日本語を使うか→一日前を振り返って朝からの日本語使用の実態を述べてもらう→その他コメント

本稿が全員一律にインタビューの一日前(2003年11月28日)の日本語使用の実態について協力者に口頭で述べてもらったのは選択的な情報提示を排除して公平性を期すことと、記憶の鮮明なうちに情報を引き出すためである。

### 1-2. 調査協力者

インタビューすることを許可してくれた調査協力者の詳細を以下に記す。イニシャルの名前は仮名である。

名前	性別	卒業年	国籍	学部	会社名
MD	男	03	バングラデシュ	IM	Fair trade company
JC	男	03	カナダ	IM	CMC 株式会社
CZ	男	02	シンガポール	IM	シンガポール大使館
TW	男	03	タイ	e-business	イオン (Aeon)
BA	男	03	ルーマニア	IM	ドレスナー・クライオンズ・ヴァンセスタイン

(1: 調査協力者の詳細1)

名前	仕事の内容	国際大学での日本語学習歴
MD	財務	エレメンタリー123、中級123
J C	マーケティング	中級123、上級123
C Z	一等書記官（商務）	中級123、上級123
T W	B to B 推進 ソフト開発	上級1 修了 上級2は途中で辞退
B A	リスク管理	中級123、上級123

（2：調査協力者の詳細2）

### 1-3. 調査資料

口頭で行われた面接調査の録音は全て文字化した。文字化に際しては会話・談話分析のためではなく、インタビューで伝達される内容を収集するためのものなので、日本語で記録した。スクリプトで質問者のターンにはQ、協力者のターンにはイニシャルを使用し、通し番号をターンの頭につけた。例えば調査者Qと協力者MDの面接の最初の2ターンは以下ようになる。

（3）1 Q：会社でいっぱい日本語使ってますか。

2 MD：ん～、使っています。

本報告では文字化スクリプトから引用する部分のみを本文中か注に掲載する。紙面の制限からスクリプトの全文は割愛する。

### 1-4. 日本語レベルの定義について

学習者の日本語使用の実態を考察する前に日本語レベルの定義をしておきたい。本学では年間約160時間の「エレメンタリー日本語」と呼ばれるコースのレベルを「初級」と呼び、この初級の上にさらに年間150時間の「中級日本語」と呼ばれる「中級」のコースがある。本学での中級を修了した上で履修するコースが上級日本語と呼ばれる。日本語教育においては一般的に300時間程度修了を「初級」<sup>2</sup>の終わりとし、それ以上を「中級」の領域としているので、本学の上級は日本の一般的な「中級」に相当すると言える。以後特別に断らない限り、初・中・上の各級の呼称は本学のレベルを示すものとする。

## 2. 調査者の日本語使用の実態

協力者別にインタビューの前日一日に職場で行われた業務関連の日本語でのインターアクションの内容を以下にまとめる。「昼食を注文する」や、「電車に乗るのに駅名を読む」といった職場での業務に直接関係ないものは、勤務時間内でも省略した。

## 2-1. MDさんの場合

MD は卒業時に中級を修了している。初級を終えてインターンシップで日本語を使う機会があり、この期間に口頭発話が流暢になった学生である。職場では日常的にも、調査した日にも日本語は業務でよく使っており、また内容も業務に関連した専門的なものである。以下にそれを見ていく。

(4) 56MD:私にとって上司は日本人。だからあの「MDさん、この仕事しよう」って、説明は全部日本語で。

57Q:それでどんな仕事？

58MD:それで仕事するか、説明、よくできないと、仕事よくできないね。だから一番必要は、あの、何か上司の、どんな仕事、どんな説明なの、それよくわからないと、自分の仕事はよく、分かり、あの進まないね。

59Q:それで、昨日やりましょうといった仕事はどんな仕事？

60MD:それは財務の仕事。だからそれはほんとに財務の仕事ならそれはあの、何か、聞いたりできないと、それはあぶないですね。だから日本語はよくわからないとそれはできない。

61Q:その仕事は上司と日本語でどのくらい話したんですか。1時間くらい？2時間？

62MD:あ〜、そうですね。それは多分4時半か5時半。

63Q:4時間？

64MD:4時間か5時間

65Q:あ、そんなに？

66MD:はいはいはいはい。だから多分朝から、

67Q:ああ

68MD:朝ミーティングは、それは全部日本語で、

以上の会話からMDのインターアクションは次の3つに要約される。

a.朝の業務ミーティング(68MD)

b.上司と財務関係の仕事の打ち合わせ(60MD~64MD)

c.上司の仕事の提案に応じて(56MD)4時間半から5時間半話し合う(62MD)

長時間にわたり、専門的な業務を日本語で行っていることがわかる。

## 2-2. JCさんの場合

JCは、在学中に口頭での発話と発音が自然な学習者であったが、上級を修了して就職した。以下の会話から職場でもそこが強みとなっていることが分かる。

(5) 44JC:部門に行って、部門にまず行って、え〜その契約書を渡したんですよ。で、その一人、僕一人だったから、当然お客さんは日本人だから、その契約書から、け、契約書を、企画書、ごめんなさい企画書を、えーまあ、10枚ぐらいかな、の資料だったんですよ。でそれを一枚ずつ、あの、説明しないと、一応向こうの人はすごく親切な人、あ、方なんですよ。ですので僕はまあ、当然日本人ではないからまあ、片言日本語で一応説明しましたけど。それは最初の日本語の、、、

45Q:それは何時ごろまで？

46JC:えーとね、8時から9時ぐらいまでですね。一時間、、、

47Q:一時間ぐらい、、、その後は？

48JC:その後は、会社へ戻ってきて、えー、ま当然、電話、まい、電話ずーっと一日中

なんですよ。電話来るんですよ。

49Q:来る、、、

50 J C:はい。ほとんど日本語。ほとんどはですね、社内の、えー電話なんですけども、たまには外からの電話も、あの、取るんですよ。で、CMCでございますとか、一番、、、

51Q:いつもお世話、、

52 J C:そうそうそう、そう、いつもお世話になっておりますとか、えー、わたくし、あ、もう電話する場合、J Cと申しますとか、その、あの、ほう、ちょうど、あの、IUJ ので、国際大学で、勉強した、えー、えーとー、敬語みた、その、そればかりですね。

ここまでを要約するとインターアクションは社外の人と行われた2種類となる。

d.取引先で10ページの企画書について説明をする(44 J C)

e.電話の応対(48~52 J C)

また社内の上司とのものもある。

(6) 68 J C:で、その後は、えーとねえ、室長、室長はいとうさんという人なんですけど、室長はいきなり「J Cさんハーレーデーヴィッドソンのことご存知ですか」って聞かれて、まあまあ、勉強、あの、IUJ で一応勉強しました、「ああ、そうですか、あのー私たちのほうのお客さんになる可能性がたかいんですよ。だから branding とか marketing の話を教えてください」という

f. 将来の顧客になる可能性のあるブランドとその市場調査について

室長と話す(68 J C)

以下は全員一律の調査日とは異なる日に起きたインターアクションなので、あくまで参考としてであるが、重要なものなので掲載する。

(7) 74 J C:あ、もひとつこれはね、昨日じゃなかったけど、先週、の水曜日、Lexus

75Q:トヨタの

76 J C:っていう車ありますよね。Lexus brand 言っちゃいけないかもしれないけど、confidential ではない、ではない。ごめんなさい。Lexus の仕事なんですよ。でその brand's concept の全部日本語の、し、えー、なんていうの、base っていうか original がね、会社に来て、「全部英語に直してください」という

77Q:日本向け英語のトランスレーション?

78 J C:はいはい。頼む、頼みもありましたけど、それは当然僕は一人ではできないことなんですけども。ひ、私ともう一人の日本人のえー、同僚の人、えー、なに、えーさとうさんという人なんですけども、一緒にあのー、話

79Q:コラボレーション?

80 J C:しながらできました。で実はその評価は高かったですよ。なぜかと言うと、私たちはすごくよかった。す、すごい大変だったけど、直接日本語を、えー、翻訳するではなくて、その意味もちろんわかんないといけないけど、その意味プラス Lexus のなんていうかな、あの、Lexus は全然あの、普通の車と違いますよね。

81Q:クオリティを感じさせるような、

82 J C:そうそうそう、その

83Q:ニュアンス

84 J C:はい。Lexus 言語ということばあるから、それもふくめて、はい、あのー、一応直しました、ていうか英語に。はい。

以上を要約すると

- f. 日本語で書かれたブランドコンセプトを日本人との共同作業でブランドのもつ高級感を映して英訳する (76 J C) 3

と言えるが、単なる翻訳でなく、ブランドの持つ高級感を日本人との共同作業で訳出する作業は異なる日本語の文体がもつニュアンスを理解する力がないとできるものではない。

### 2-3. CZさんの場合

民間企業に勤めている調査協力者の中で CZ は唯一政府機関に勤務している。彼は上級を修了して卒業した後、一度帰国して国の外務省に入省し直し、東京に来て日本語を使う業務についている。

(8) 16CZ:9時ですね。9時行って、もちろん、その秘書たちと話すときにはその、日本語ですね。

17Q:日本人?

18CZ:日本人ですね。今週の3日間は、その、火曜日から木曜日はその、ずっとそのオフィスそとだったんです。その、コン、会議に参加したんですが、そう、9時出勤して、その、会社にその、ついたら9時から、秘書とその3日間は何がその、できこと話しました。そして、その、用意する来週のいろいろ program の調整とか、それもその日本語でその、話しましたが、そしてその10時半はその、静岡県からの人も来ました。静岡県の、その、外資誘致の担当部署の人はその、オフィスにきました。その、話、内容は大体は、その、に、し、静岡県にそのどんな、その、ゆう、優遇のその、措置、優遇措置、今導入しているか、そのちょっと説明していただいたんです。それは、その大体は一時間ですね。

簡単にまとめると以下のようなになる。

- h. 日本人の秘書から出張していた3日間の出来事について報告を受けたり、次週の予定について説明を受ける (16CZ)
- i. 静岡県からの外資誘致の担当の人と優遇措置について話し合う (18CZ)

政府機関特有の日本語のインターアクションが行われている。

### 2-4. TWさんの場合

TW は国際経営学科所属のイービジネスの修了者である。在学中の一年間で彼は上級1を修了して、上級2は全11週中第5週目で履修を取り止めた。2年分を1年に圧縮したイービジネスのコースと日本語の2つを同時にこなすのは負担が重過ぎると判断したためであった。彼は在学中から日本IT関連の企業か、企業のIT関連の部署に就職を希望しており、就職の模擬面接なども積極的に行った学生である。その彼が念願かなって、ビートゥービー推進部でIT関連の仕事に日本語はどのように関わってくるのかを以下

に見ていくことにする。

(9) 1Q:やっぱり卒業して日本語使う機会ってのはある？

2TW:僕は100パーセント

まず、この協力者は仕事では日本語しか使わないということを上のように表現している。

また、

(10) 28TW:だから、基本的には予定立っていますよね。あのマネージャーからいろんな話してとか、例えば翌日何がするか、で、昨日いろいろ何かあの、説明会も参加したんですけども、そうですね、私はBtoB推進部ですけど、しこども情報システムもいろいろな関係ありますね、だからとりあえず話してどうやって、どうすればいいとあの、なぜかといいますと、自分だけで考えるとほんとに他の人何してるは、もう、何か相談してみないと、あわない場合もありますよね、だからそして説明してもらって、で、こっちのほうも向こうに説明する、その、いつもほとんど毎日あたりまえにしことする。で、そして、午後からもまだ、

29Q:また、

30TW:説明会ですね、説明会ばかりですね。

ここでいう「説明会」はいわゆる社内の打ち合わせの意味である。以上のインターアクションは以下のようにまとめられる。

j. 上司から予定について説明を受ける (28TW)

k. 上司と問題点について話し合う (28TW)

日本語でのインターアクションは以上の2つと、

(11) 42TW:そうですね。あの、余裕あるときにはまだ、あたら、今シス、新しいソフトも使い方はっきり分からないっすので。とりあえず自分であの一資料を読んで、使ってみて、分からない点があったら、コンサルタントというのは契約している会社もありますね。だからもし問題があったら直接連絡して、電話かまた連絡するか、「この点はどうですか。どうやって、教えてください」って。で、あの一相手の会社も out sourcing も来ますね。で、「この場合はこれでやってください」で、今データベースに関係も結構厳しいっすね。

l. 契約している会社の人にソフトウェアの使い方を説明する (42 TW)

というものもある。

## 2-5. BAさんの場合

基本的に BA は他の協力者に比べて日本語を使う頻度は低く、聴解に偏っていて産出はあまりない。

(12) 41BA:まあ、日本人の同僚たちは日本語で説明して、私は英語で答えるっていうし  
かけで。

これはつまり、

m. 業務について同僚は日本語で、自分は英語で答えるインターキャンビオ(41BA)

ということになる。このインターアクションにおける聞き取り能力は上級だが、英語で答える部分は日本語能力とは関係ない。

## 2-6. まとめ

以上、ある一日の日本語使用の実態を俯瞰してみると、全員がかなり高いレベルの日本語で業務を行っているということが分かる。頻度の少ないBAでも、(12)からわかるように、聴解は専門分野の業務関連のものであった。実際の職場においてこれらのインターアクティブな課題を遂行する能力は日本語コースにおいてならば、中級レベルでようやく必要最低限の自分の発話も相手の発話もほぼ決まっているフォーミュラの会話のトレーニングが施せる程度であり、展開が複雑に枝分かれしていく内容中心の会話の練習は中級レベルを超えている。この上に、場面に即応して流暢にコミュニケーションができるようになるためには上級レベルのトレーニングでも十分すぎることはない。

## 3. 職場における日常的な日本語使用率について

TWは職場では(10)からわかるように「100%日本語を使用する」(1~14TW<sup>4</sup>)とされており、筆者は日本語以外の言語の使用がまったくないことと受け止めた。英語などの日本語以外の言語に比べて日本語使用率という点からすると、TWは5人の協力者中最高と思われる。BAは「自分は英語を話し、日本人は日本語で話し」(16~18BA<sup>5</sup>)インターキャンビオでコミュニケーションをするという点と「数学だけ使用して自分一人です仕事は80%」(45~49BA<sup>6</sup>)という点から日本語使用率は最低だと考えられる。JCも日本語しか使わない場面があるといっている。(20JC<sup>7</sup>)

残りの3人の日本語使用率はこの2者の間に入るわけだが、職場での日本語は「(いっぱい)使っている」(2MD<sup>8</sup>)「よく使う」(16JC<sup>9</sup>)「半分」(2CZ<sup>10</sup>)というように、使用率が高い。

## 4. 結論

卒業生の職場でのインターアクションに使われる日本語の内容は上級レベルでなければトレーニングが十分にできないものであることがわかった。また日常的に日本語の使用率も高いことが判明した。本学の卒業生も職場で上級レベル以上の日本語能力が要求されている実態がうかがえた。(18~20MD<sup>11</sup>・102JC<sup>12</sup>)

日本語を就職のために自分の付加価値とすべく日本語を学習しに来る学生がいるかどうかという点に関しては、企業に就職する際に日本語が十分条件になるどころか、(8MD

13・32MD<sup>14</sup>) 必須条件となつてすらいるところから考えれば、ありうると言えよう (16 MD<sup>15</sup>・58MD<sup>16</sup>)。

上級日本語のクラスは学生にとって必要かどうかという問題に関しては、卒業後日本語を使用する機会が職場に必要な学生が実際におり、上級レベルの日本語が要求されている実態を考えれば、実施する必要は十分にあると言える。在学中に上級日本語を履修する学生数が少ないからマンパワーの無駄であり、下位のレベルに力を注ぐべきだという経営者的論点には、さまざまな要素を本学の教育・研究理念から導いて決めることなしには最終的な結論に至ることはできない。さまざまな要素とは、学生が日本語を使う職場への就職を考えている場合には学生にどのような日本語能力を備えさせるのか、どのような就職戦略をとるのかということである。学内は英語環境であり、学生の卒業後の就職機会からは日本語は除外して考えるという方針が導かれれば、ベーシック、初級に力を入れるべきであるということになる。そうなった場合は今回協力者となった卒業生のような存在は日本語を武器に就職することは不可能になる。しかし、役に立つ日本語コースの立場からこのことを論ずるのであれば、中級はもちろん上級コースも学生の役に立っているといえる (52~54 J C<sup>17</sup>)。職場においてさらなる日本語上達を迫られている (10~12 C Z<sup>18</sup>・46 T W<sup>19</sup>・71~73 B A<sup>20</sup>) 者の中でも、T W (53 付記 T W<sup>21</sup>) のケースのように分からない日本語を日本人に聞く事すらはばかられるという証言からは在学中にできるだけ高次の日本語をどれほどたくさん勉強してもし過ぎることはないと言えるのではなかろうか。これ故日本語のコース、なかんずく上級コースの要不要が経営的視点のみで論じられては重要な学生のニーズが看過されてしまうおそれがある。学生のためにとって何がよいのかという視点から上級コースは欠かすことはできないであろう。

注

- 1 この時間は2003年9月からの学年度で採用された制度での時間数で、本インタビューで面接した学習者の在学中はエレメンタリー日本語は約200時間であった。
- 2 土岐・関・平高・新内・鶴尾(1995) p 3
- 3 74JCにあるようにこの活動はインタビューを基点とした前週の水曜日に行われた。
  - 4 1Q:やっぱり卒業して日本語使う機会ってのはある?  
2TW:僕は100パーセント  
3Q:100パーセント日本語?  
4TW:はい。会社で。  
5Q:TWさん今どこで働いていらっしゃるんでしたっけ。  
6TW:えとね、イオン株式会社  
7Q:イオン  
8TW:っていう会社で、本部で。  
9Q:どこにあるんですか。  
10TW:あの、千葉の幕張、に、ありますね。  
11Q:千葉の幕張。で、住んでいるのも幕張?  
12TW:あー、もうちょっと30分ぐらい離れて、西千葉という駅、ま、そこらへんに住んでますよね。  
13Q:えー、100パーセント日本語  
14TW:100パーセントですね。あの、実は、まあ、各部署も、あの、日本じ、外国人もいるんですけども、1パーセンもないですね。なぜかといいますと、なん、本部で3000人ぐらいいますよね。で、10人しかいないね。外国人10人もない、いないですね。5, 6人ぐらいですね。そしていつでも日本語で通じますね。話すとき。
- 5 16BA:日本語はね、同僚たちはほとんど日本人だけど、ま、公用語は英語  
17Q:ふーん。IUJみたい、  
18BA:たまに日本語も使います。
- 6 45BA:そう、そうですね。でも私の仕事は自分でやる仕事は80パーセントぐらいですね。  
46Q:あ、一人でやる。  
47BA:一人でやる。はい。  
48Q:じゃあ、あんまり日本語は関係ない、、、  
49BA:何語でも関係ないです。数字だけ。
- 7 20JC:なぜかという、えー、私は、あと外国の、えー、方はですね、社員はね、3人しかいないんですよ。私と後二人。で、一人韓国人で、もう一人は、えー、中国の方なんですけど、私より日本語上手なんです。けども、もうみんな他の社員はみんな日本人だから、全部、あの、メール、電話、あの、会議でも、全部日本語でやらなきゃいけないから、チャレンジングですね。
- 8 1Q:会社でいっぱい日本語使ってますか。  
2MD:ん～、使っています。
- 9 15Q:はあ、それで、日本語はどうですか。使いますか。  
16JC:よく使います。

- 10 IQ: CZさん、今仕事で日本語どのくらい使います？  
2CZ: 大体は半分ですね。
- 11 18MD: 実はですね、先生。私入ってから、あの、朝ミーティング全部日本語でした。だからほんとにびっくりしました。だが、でも今もう慣れました。  
19Q1: 慣れました。  
20MD: あの、さらに私、会社の、あの、イギリスの店の担当みたいな、の仕事していますので、それは何か、あ～、初めての会議？それは全部で、日本語でした。そのあと、「それは翻訳してください」と言って、「そこまで、(笑) そこまでできない」。でも今もう慣れました。今、あの、毎月会議の翻訳、それはイギリスに翻訳してイギリスに、、、送っています。
- 12 10J C: それは有名ですね。で、それで実際の real world に入ってみるとやはり大変だ。そのアバウトな日本語は通じないですよ。あ、あの、それは仕事になれないとかそういう気持ちはよく分かりました。はい、
- 13 8MD: メールは、読むメールはそれは、漢字とか英語、あの日本語で、でも私何か自分で送る場合は、それは、英語で。(中断)  
でも、日本語分かれば、あの、日本語分かれば、仕事、するのはほんとにやさしくなります。例えばあの、新しいこと？それは、自分でまず分からない場合がありますね。そのとき同僚とか、何か他の人とか人になんか「教えてください」と言えば、そのとき、こちは納得すれば、もらえますね。説明とか、なにかやり方とか。それは今年それはほんとに便利と思う。
- 14 32MD: よく説明して、あのいい買い物できると思うね。例えば、どんなもの欲しい、、、どんなもの欲しいか、あの例えば買った後で、あのどんな、どんな方で使うか、あのどんな問題、あの何か出ていますかどうか、それは、あの、日本語で説明すれば、例えばあの、よく何かソリューションとかそれはできると思う。例えば、私、ヤフーBB、それは、そこった後、あの何か問題でていました。それはあの、どういう風にあの、日本語で説明して、すぐ何かあの、新しいモデルとか新しいいろんな情報とかそれはできるようにになりました。
- 15 16MD: フラッシュカード、漢字。でもほんとにあの、例えば、日本語、あの、これから、もう、よくあの、いい仕事見つかる場合は、あの、「日本語できませんか」そういう話の場合は「できない」といいますと「ああ、それはちょっとね」。だから私にとって日本語ほんとに必要だと思います。
- 16 58MD: それで仕事するか、説明、よくできないと、仕事よくできないね。だから一番必要は、あの、何か上司の、どんな仕事、どんな説明なの、それよくわからないと、自分の仕事はよく、分かり、あの進まないね。
- 17 52J C: そうそうそう、そう、いつもお世話になっておりますとか、えー、わたくし、あ、もう電話する場合、J Cと申しますとか、その、あの、ほう、ちょうど、あの、IUJの、国際大学で、勉強した、えー、えーとー、敬語みた、その、そればかりですね。  
53Q: ふーん。  
54J C: ほんとに勉強してよかったっていう気持ちですよ。はい。
- 18 10C Z: そうですね。そうですね。その日本語の勉強の上では、その専門的な、その専門用語も勉強しなければならない。

11Q:で、C Zさん今、やっぱり日本語勉強してます？

12C Z:あー、そうですね。少し前は、その、土曜日は毎週土曜日はその学校に通って  
ますが、でもその今月の、先月ちょっと忙しくて、その、一時的にはその、とめて、そ  
の、( )そろそろは、その、あー、始めーと思います。

19 46T W:部内に、何か、今週何がしてるか、何が進める、何が失敗するか。で、それも発表す  
ね。で、みなさんにあのー「私の部署は20人くらいいます」で、みんなに説明して、  
みんな逆に「これを何説明するのはわからない」ちょっともうちょっと細かく話して、  
それを、これからまあ、専門用語あまりわからないのはすごいこまりますよね、で、  
ちょっと慣れるまでがんばります。

20 71B A:え、えへ、さ、今そうですね、ま、あす、私も日本、私は日本語の勉強を続けて  
いる。

72Q:あ、そう。どうやって。

73B A:なぜかと言いますと、会社は私の上級の日本語のコースを払ってくれるから

21 53 付記T W:インタビューの録音終了後に続いた話の中で、T Wは、本来新入社員が本部  
勤務になるまでには地方のジャスコの支店で現場を経験するという段階を例  
外なく踏まねばならないのだが、その段階を例外的に省いて採用と同時に本部  
勤務なったこともあり、周囲からは妬みもあるとのことであった。日本語が分  
からずに同僚に質問などしようものなら「何、こいつ、日本語もわからないく  
せに、採用即本社勤務になって」との冷たい反応が返ってくるので、日本語に  
関する質問は極めてしにくい状況であるとのことであった。

#### 参考文献

加藤好崇・阿曾村陽子・鹿嶋彰・芝薫(2002)「東海大学学部留学生の接触場面における  
日本語使用実態調査」日本語教育学会東北支部大会発表予稿

宮崎里司(2001)『外国人力士はなぜ日本語がうまいのかーあなたに役立つことば習得の  
コツー』日本語学研究所

土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・鶴尾能子(1995)『日本語中級J301基礎から  
中級へー 教師用マニュアル』スリーエーネットワーク